絆 清水はやと ニュースレター KI-ZU-NA

さいたま市長 清水はやと

2016（平成28）年1月特別号

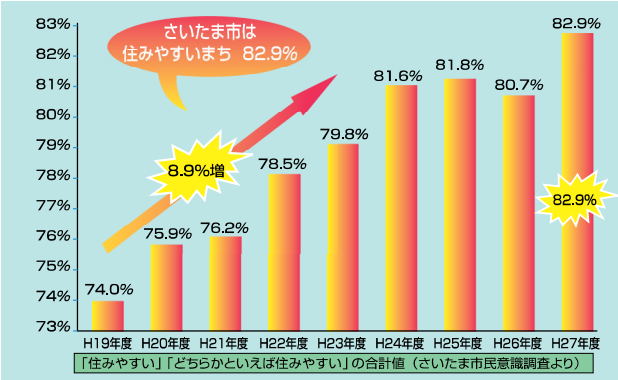
市民一人ひとりがしあわせを実感できるまち

スポーツで日本一笑顔あふれるまちの実現に向けて

～著書「さいたま市未来創造図❷ スポーツで日本一笑顔あふれるまち」より～

なぜ、スポーツのまちを目指すのか

さいたま市は、鉄道や高速道路など広域的な交通機関が充実しており、内陸型都市のため地盤が安定して災害に比較的強い地域です。また、旧市時代から、教育・文化・健康・スポーツ・環境などのさまざまな分野で取り組みも進み、平成27年度の市民意識調査の結果、82.9%の市民が「住みやすい」「住み続けたい」と感じています。

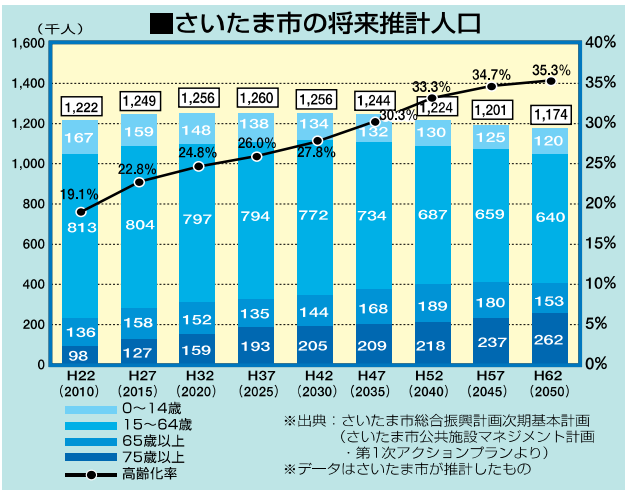


さいたま市が抱える課題 ～急激な高齢化の進展～

現在、さいたま市の人口は126.9万人。そのうち65歳以上は21.4%（平成26年度）であり、今後さらに高齢化が進みます。2025年には団塊の世代が75歳以上となることで、社会保障給付を受ける側になり、医療、介護、福祉サービスの需要が高まることが予想されます。市民が安心して暮らせるさいたま市にするため、今から対応を検討していく必要があるのです。

高齢化の影響を緩やかにするために健康で長生きすることや、子どもを産みやすく、子育てしやすいさいたま市を選んで他の都市から移り住んでいただくことも重要です。

また、もう一つの高齢化、公共施設の老朽化対策としての「公共施設マネジメント計画」を策定して、いち早く対策に取り組むことや、地球温暖化対策として「E-KIZUNA project」や「次世代自動車・スマートエネルギー特区」を推進することで低炭素化地域のエネルギーセキュリティの確保に挑戦し、「環境未来都市」の実現を目指しています。



スポーツの力

スポーツ分野への積極的な取り組みは、さいたま市の課題解決の手がかりの一つとなります。大規模スポーツイベントの開催による①経済効果も大きく、地域経済を活性化させる重要な役割を果たします。同時に市民一人ひとりがスポーツで②健康増進を図ることで、③医療費の抑制や④健康寿命を伸ばすことにつながり、⑤温室効果ガスの削減や⑥コミュニティの再生にも大きく貢献します。

持続的に成長する都市へ

人口減少社会と少子・高齢化問題を乗り越えていくために、都市の機能性や利便性を高め、持続的に成長する都市づくりを進めており、現在7つのプロジェクトを設けています。

▶国際観光都市戦略「さいたMICE」▶スポーツ観光・産業都市戦略▶医療ものづくり都市構想▶環境技術産業の推進▶東日本の中枢都市構想▶広域防災拠点都市づくり▶戦略的企業誘致と国際展開支援

スポーツのまちを世界に発信

～2020年東京オリンピック・パラリンピックで目指します～

①健康寿命日本一

政令指定都市の中で、さいたま市は現在、浜松市（74.46歳）、静岡市（72.96歳）に次いで第3位（72.71歳）をNo.1に!

②将来の夢・目標を持つ子どもの割合日本一

全国学力・学習状況調査（平成27年度）でさいたま市は、将来の夢や目標を「持っている」「どちらかといえば持っている」が全国平均を上回り、小学生（89.1%）、中学生（75.1%）。夢は生きる力です。さらに日本一に!

③年間来訪者数3,000万人

現在、観光入込客数2,363万人。これをスポーツ大会やイベントを誘致することで3,000万人に!

④スポーツボランティア参加率20%

子ども大使などオリンピックでのボランティアを拡充して、市民のスポーツボランティアの参加率を20%に。そして、スポーツのみならずボランティアの担い手として活躍してもらう。

⑤成人の週1回以上のスポーツ実施率日本一

平成26年度の週1回以上のスポーツ実施率46.7%（平成22年同39.4%）を70%に引き上げ、ウオーキングなど身近なスポーツも含めて日本一スポーツをする人の多い市に!

平成23年10月～平成27年3月
さいたまスポーツコミッション（SSC）が誘致・支援した
スポーツイベント開催による
経済効果
設立から3年6カ月で
約292.4億円

誘致・支援した大会の件数	誘致・支援大会の算出人数
116件	645,256人

経済効果額合計 233億5,909万7,548円
※SSC発表「スポーツイベント開催に伴う経済効果」より
※誘致・支援件数、選手関係者・観覧者数には、SSCの主催事業、または共催　事業（さいたまクリテリウム等）は含まれていません。

ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムの経済効果 ※SSC発表「スポーツイベント開催に伴う経済効果」より

平成25年度	約30億2,900万円
平成26年度	約28億5,600万円

さいたま市のスポーツによる年間経済効果 ※清水勇人の試算
約275億円以上

SSC関連イベント	66億円以上（年平均）
さいたまクリテリウム	29億円以上（年平均）
浦和レッズ	127億円
大宮アルディージャ	50億円
さいたまシティマラソン	3億円

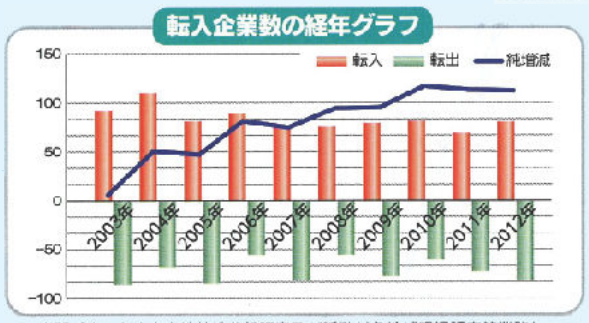
「さいたま市未来創造図❷」発刊!

Book

清水市長の著書「さいたま市未来創造図❷スポーツで日本一笑顔あふれるまち」（定価900円税別・埼玉新聞社）が書店にて好評発売中です。ぜひお読みください。

Close-up 1 選ばれる都市へ

この10年間、市内における企業本社の転入・転出状況をみると、転入数が112社上回っています。「交通利便性」「災害に強い内陸都市」として、ビジネス拠点においても、魅力的なまちとして評価されています。



人が集まる都市へ

魅力的なまちとして、さいたま市は現在も人口増加を続けています。

Close-up 2 東日本の中枢都市へ―東日本連携・創生フォーラム開催

10月26日に清水市長の呼びかけにより、さいたま市で「第1回東日本連携・創生フォーラムinさいたま」が開催。函館市や青森市、福島市など13の市長・国関係機関・商工団体等の皆さんに参加いただき、東日本地域の広域連携・地方創生について議論するとともに、東日本の観光ゴールデンルートづくり、共同PR等連携の取り組みについて提案され、具体的な検討を進めることになりました。

Topic 1 2015ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム開催

世界最高峰の自転車競技イベントである「ツール・ド・フランス」の名を冠し、その雰囲気をそのまま再現した「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」が10月24日、さいたま新都心周辺を会場に開催されました。レースの模様を一目見ようと午前中から多くの人が会場を訪れ、世界のトップレーサーの走りに酔いしれました。

今年で3回目となる同レースの模様は、メインスポンサーであるJ:COMをはじめ衛星放送や地上波による放送など、さまざまな媒体を通じて世界に発信されました。

Topic 2 第1回さいたま国際マラソン開催

11月15日雨模様の中、さいたまスーパーアリーナを発着点として盛大に開催されました。子どもから大人まで世代を超えて親しまれてきた「さいたまシティマラソン」が「さいたま国際マラソン」となり大きくスケールアップ。また今大会は、リオデジャネイロ・オリンピックの女子マラソン代表選考レースと位置づけられました。当日は約1万人の一般参加者とともに、感動のレースとなりました。

Topic 3 トリエンナーレの開催に向けて

さいたま市では、文化芸術の祭典として平成28年度に「未来の発見!」をテーマに「第1回さいたまトリエンナーレ」を開催する予定です。

日本一地域の絆で結ばれたまち

編集・発行／ 絆ネットワーク（清水はやと後援会） 〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮7-70-3-1F TEL.048-686-9940 FAX.048-686-9941
[清水はやと ホームページ] www.shimizu-hayato.jp [Facebook] www.facebook.com/shimizuhayatooffice

毎週土曜日 朝7:40～8:00 FM Nack5「ザ・フロンティアーズ」にパーソナリティとして出演中